令和5年度

榛生小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

〇少人数による個に応じた学習の充実を図る。
〇言語力を高める学習の充実を図る。
〇家庭と連携し家庭学習習慣の確立を図る。

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や校内公開授業日，教員からの報告等の機会を設け，取り組み状況の把握を行う。

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み，学力の向上を推進

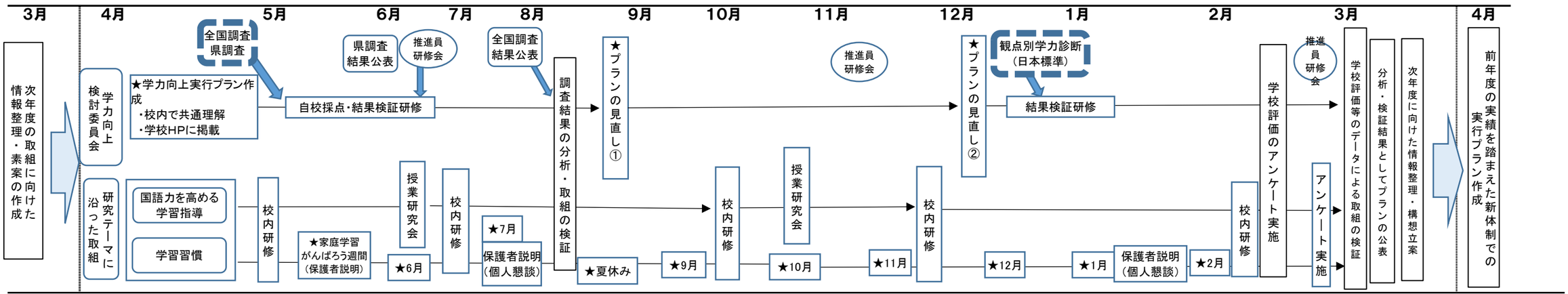
（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（〇よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
〇漢字プリントや計算ドリルなどを朝の活動時に行ってきたため、計算の基礎的な力は身についてきている。 ●国語の総合的な力の弱さが見られる。前学年で学習した漢字の習熟が十分でなく、それらの言葉の意味を把握していないことが多い。語彙力や読解力が低いことも課題である。	・基本的な読み書き計算などの技能をしっかり身につけ、活用することができる。 ・本に親しむことで、語彙力を増やし、長い文章でも内容を理解できる。	①前学年で学習した内容のプリントやタブレット端末などを利用して学習する機会を設ける。 ②毎週火曜日の朝の活動は、地域の方による読み聞かせや読書の時間にする。 ③全校で1年間に1000冊本を読むなど目標を決め、実践する。 ④辞書を引かせたり、文章を読んで大事だと思う箇所には線を引かせたりする。	・新聞を読む時間を作ったり、百マス計算を実施したりする。	・新聞を読んだり、辞書を引いたりすることで、語彙力を増やすことにつながった。 ・百マス計算やタブレット端末を利用したドリル学習により、漢字や計算の基礎的な力は身についてきている。 ・地域の方や教員による読み聞かせを行ったり、全校で目標冊数を決めて読書をしたりすることで、読書への意欲が高まり読書量が増えた。	・基礎的・基本的な知識の定着させるために、朝のドリル学習の時間を有効に使い、前学年の復習や当該学年の既習事項の復習をする時間にする。 ・朝の読書の時間は、年間を通してできるようにする。 ・身につけた知識を用いて課題を解決する学習活動を増やす。

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（〇よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
〇与えられた課題をこなし、パターン化された表現などは、積極的に練習して意欲的に取り組む。 ●学習した知識を生かして考えたり、答えを導き出したりすることが難しく、「わからない」と諦めてしまうことが多い。そのため、自分の言葉で考えを発表することには消極的である。また、語彙が不足しており、相手意識をもって筋道を立てて説明することが苦手である。	・習得した知識を他の学習や場面でも活用できるようにする。 ・目的や相手に応じて適切に話をすることができる。	①身につけた知識を用いて課題を解決できる学習活動を増やす。 ②ホワイトボードやタブレット端末を用いた発表や話し合い活動をさせる。 ③子どもが、新聞や本を読んだ感想や自分が興味をもったことなどについて発表する機会を設ける。 ④全校での話し合い活動、集会、学級会などの活動を積極的に取り入れる。	・近隣の小学校とのオンライン交流で、タブレット端末などを利用して自分の意見を発表する。	・タブレット端末を用いることで、相手を意識したわかりやすい説明ができるようになった。 ・本を読んだ感想を発表したり、おすすめの本を紹介したりする活動に取り組むことで、目的や相手に応じて発表の仕方を工夫するようになった。 ・全校での話し合い活動や学級会などを通して、他の人の意見を取り入れた、より深い考えを発表できるようになった。	・子どもがタブレット端末を活用し、課題について調べ、意見や考えをまとめ、発信・交流できるようにするなど、ICT機器の効果的な活用方法について、教職員の研修を深める。その際、ICT支援員とも連携して行う。 ・全校話し合いの議題を精選する。

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（〇よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
〇朝のドリルや教科の学習はまじめに取り組む。また、苦手なことにも前向きに取り組む児童が少しずつではあるが増えてきた。 ●読書に親しむ子どもは増えつつあるがまだ全体的に十分ではなく、家庭での読書習慣が定着していないところも多い。	・学習課題に進んで取り組み、学ぶ楽しさやできる喜びを感じ、自信をもつことができる。 ・自分の学習状況を振り返り、自分の課題を見つけ解決することができる。 ・読書に親しみ、家庭でも読書をする習慣を身につけることができる。	①授業のねらいを明確にし、児童が見通しをもって学習に取り組むことができるようにするとともに、振り返りの時間を設定し、自己の学びを深めることができるようにする。 ②タブレット端末などを活用し、自ら課題を見つけて学習に取り組む機会を設ける。 ③本を読んだ後や行事の後は、感想を学級や全校などで発表する機会を設ける。 ④家庭学習がんばろう週間などを実施し、家庭学習の充実を図る。	継続して行う。	・授業のめあてや流れがわかるように板書計画や資料の提示の仕方を工夫した。 ・タブレット端末を使って、自分の課題に応じた漢字学習や計算問題に取り組めるようになった。 ・本を読んだ感想を学級などで発表することで、様々な種類の本を読もうとする子どもが増えた。 ・高学年は自主学習に意欲的に取り組むようになった。	・毎時間のめあてや振り返りの書き方等、ノート指導について改善を図る。 ・更にタブレット端末を有効に活用し、自分の課題に合った問題を選んで学習する習慣をつける。 ・家庭学習の手引きは配布したが、学期末などに家庭でどの程度学習できているか確認する機会を作る。

令和5年度　学力向上ロードマップ